

ニコラス・ペタス 公開インタビュー

「折れない心の作り方」

司会者； それでは皆さん、こんばんは。

(会場内； こんばんは一)

司会者； TERA KOYA 無料音声配信企画『あの人の声が聴きたい！』第4弾ということで、本日司会を担当させていただきます TERA KOYA・幸せ配達人ヌックこと檜原と申します。

えー、音声をお聴きの皆さんも会場の皆さんもお会いするのは初めてだと思いますが、えーTERA KOYAのスタッフの中では一番の格闘組フリークということで、僭越ながら本日私が司会を務めさせていただきますので、よろしくお願ひします。

(会場内； 拍手)

司会者； えーさて今回は『あの人の声が聴きたい！』第4弾企画ということで、ニコラス・ペタス氏をお招きし『折れない心の作り方』というテーマでお話をさせていただきます。

ニコラス・ペタス氏につきましては、ご存じの方も多いと思いますが、デンマークに生まれ育ち、15才の時に空手と出会い、その後18才の時に更なる強さを求め、海を渡り来日されております。

そこで、空手の世界では非常に著名人であります大山倍達(おおやま ますたつ)という方の内弟子となっております。

で、異国での厳しい内弟子生活を過ごし早くも22才の時には全ヨーロッパ空手道選手権大会・重量級にて優勝を飾っております・・・という非常にあの～空手家としてというよりは、一人の人間としてですね、あの～海を渡って厳しい道に入っているということで、あの～そもそも空手との出会いといひますか、きっかけになったことって何かありますか？

はい、そうですね・・・。いきなりっすか？

(会場内爆笑)

おはようございます！

(会場内； おはようございます。)

すばらしい紹介していただいて・・・

司会者； ありがとうございます。

えーそうですね。あの～どっから始めようかなあ。

空手っていうのは、あのデンマークではそんな一般的には知られていないんです。すごく単純に言うと。

あの、なんとなくこう道着があるっていうのは知っているんですけど、日本の文化みたいに、その武道っていうのがどっか根っこにあるっていう国なんかね、全員が全員やっているっていうわけじゃないんだけど、ちょっとかじったことがあるとか、ちょっと剣道触ったとか、ちょっと柔道やったとかみたいな

のは、一般的には日本人の考え方であると思うんですけど、デンマーク人は全くそれがなくてですね。

すごい空手っていうのはエキゾチックっていうか、手が届かないような秘密の技を持ってるんじゃないのかな？っていうようなイメージが少しあるんですね。で、あの僕はもう日本に来て20年近くいるんですけど、20年前の僕の印象から言うと、日本にはまだサムライがその辺を平気で歩いているんじゃないかなっていう・・・本当にそういうイメージなんです、なぜか。

“日本＝サムライ” それこそ“＝（イコール）刀”ですから、みんなが刀持ってそうな気だったんですから。

で、僕もなんでそんな空手に出会ったかっていうと、あの～これが14才の時にですね、あの児童館っていうデンマークで18才未満の若い子たちが、夜の10時まで遊んでいってっていうのを国が作ってるんです、あちこち。

で、そういうところに通っていたんです。

で、まあ月に2回くらいパーティーをやって、でそのパーティーにはライトビールみたいなものが売ってたんですね。

それなりにみんな酒を飲んで、大暴れして、楽しい時間だったんですけど。

でそのあるパーティーの時に帰り道に、こう・・・うしろから僕、自転車の鍵を開けようとしたら「ガツッ！」ってこう・・・踏みつけられたんです。

それこそ昔、ヴァンダレイ・シウバのようにこう・・・。

（会場内爆笑）

PRIDE（プライド）でやってたような感じだったんですけど、で僕何これ～？みたいな感じで、何をしたのかわからないし、いきなり踏んづけられて、いきなりポコポコですよ。

でもう、膝蹴り食らって顔に。もう怖くて走って逃げたんです、僕。

司会者：はい。

で走って逃げて、その時はまだ冬だったんで、こう雪の中に突っ込んで隠れたんですよ。

で、寒いのは寒いんだけど、それどころじゃなくてもう、怖くてしょうがなかったです。

体が震え出して、この気持ちが人生の中で初めてなんですよ。

なにこれ？って。

まあそこからですね無事に帰ったんで、あれですけど。

しばらく何日間か経ってから、「オレ、強くなんなきゃいけない！」って、頭の中にすごい強い気持ちがもう、こうなんか急に表してきたんですよ。

で、強くなるには“空手”しかないんだって。

で、なんで空手かっていうと、僕もわからなかった、とにかくオレ空手やるん

だ！って。

みんなに言ってたんですよ、「オレこれから空手やるんだ！」、「やるんだ！」って。

でまあ、当時は今みたいに便利なインターネットがなかったし、情報が本当にそれこそ電話帳しかなかったんですよ。

でもそれも見ようとしなないし、オレが空手やるんだって決めたんですよ。

なんか道が分かれるんじゃないかなみたいな。

司会者；例えばじゃあ誰かお友達がされてたってことは・・・？

全然ですよ。まわり誰も知らないし、道場もそれこそどこにあるかわからないし。

司会者；はい。

それこそ道場あるかどうかもわかんないみたいな感じで、ただ「オレは空手やるんだ！」って。なんかこう、すごい思いが強かったんですよ。

司会者；はい。

でまあ、それをみんなに言ってたら、お兄ちゃんの友達、昔やってたみたいな。それがまた“極真”っていう空手やってて、でももう止めてて。

あの～道着もいらないから、もしよかったら道場も連れてってあげるからって、道着もあげるよって言って、でその白帯がもう使っていない白帯を持ってた。それを全部フルセットでくれたんですよ。

で、道場行く前に1回その道着を着てみたんですよ。道着の着かたを教えてくださいましたよ。

で、1回その帯の締め方で、初めてやる人はちょっと複雑なんだよね。

あれ？みたいな感じになる。間違いやすいんですよ。

司会者；はい、はい。

空手経験ありますか？

司会者；はい。普通に縛るのと、またちょっと特殊な帯の縛り方っていうか・・・。

そうそう。それをこう一発目で見さしてもらって、すぐ覚えたんです。でなんか、帯締めた瞬間、あれ？なんていう気持ち！？なんだ、この気持ち！？みたいな。すごい道着を着る自分が居心地良かったんです。

待ってたんだよ、これ、みたいな感じで。

で、まあ道場行ってその時は1988年・・・

司会者；はい。

の1月11日に行って、あの体験が出来ないんですけど、まあ見学して、もうその日に入会してやったんです。

まだ14才の時だから、1月23日が誕生日なんで。で、そっから本当空手のバカな生活が始まったんです。

でまあ、あの本当に好きだったんで～えっとまあ、どれぐらい好きだったかっていうと、2年ぐらいずっと練習したあとに、ある先輩が声かけてきたんで、ポンポンってこうやって肩叩いて。

「お前いつもそんなに練習して何が楽しんだよ？」って。

「いや、強くなる自分が楽しんですよ。」って言って「そうなんだよねー。」って言って、「でもそこまで好きだったらお前、本当日本の大山倍達（おおやま ますたつ）の内弟子みたいに練習してんじゃねえかってくらい、本当気合い入れてんじゃねえ？」って言われて。

その時にオレ「ちょっと待って下さい。」僕は思わず何を聞いたかっていうと「あれ？大山倍達（おおやま ますたつ）って生きてるんですか？」って。

（会場内爆笑）

いやだって、知らないじゃないですか。道場通ってたら、本当にその道場が結構大きかったんで、ここ自主トレの道場ちっちゃいのあって、大きめの道場があったので、そのメイン道場に入る途中に壁にこういう2枚の写真、絵があるみたいな感じで2枚あったんですよ。

それモノクロのやつなんですよ。

司会者；はい。

すっごい古いもう100年前に撮った写真じゃないかなってこう・・・いい味が出る感じなんですね。

司会者；ちょっと神秘的な感じなんですね。

そう。それが倍達（ますたつ）のマス大山のサンドバックを叩いて「ガァー！」という1枚と、なんかこう・・・なんか肩やるところ2枚だったんですけど。

司会者；はい。

それいつも見て、中に入る時「押忍（オスッ）！」って感じに気合いもらっていたんですけど、まさかあの先生生きていて思わないし、内弟子みたいにうちで練習してるから、「ちょっと待って！生きてるのかー？」ってなって「そうだよ。」って言って、本部道場でやってんだよって言って、内弟子も朝から晩まで稽古しかしないんだよ・・・って言って、あの人はあまり情報わかってなかったから・・・。

（会場内談笑）

まあそれを聞いた瞬間にオレが行くんだ！って。

本当にオレがこれはやらなきゃダメだって。

その日のうちにお母さんのところに帰って、オレちょっと3年間、日本に行って修行して来るんだけど・・・みたいな（笑）

勝手に決めてた。

お母さんも笑いながら「まあまあ好きにしてよ・・・」みたいな感じで。でもまあそれが本当に思いが強くて、先生と相談して、まあそれこそ日本に行くまでの道から言うと、学校はその時はもう高校に入ったばかりだったので、でも一年を終わらせて、校長先生のところに行って「僕は日本に行く為には学校辞めます！」って言って「何しに行くんだ？」って言って「いや、空手の修行に行くんだ。」って言ったら、そんなバカな話なんかあるかって怒られたんですけども・・・。

いやまあ、うちのお母ちゃんは学校の先生をずっとやってたんで、「一応母さんも許可を得てるんで」って言って一応「3年間は行ってもいいよ」って。

「でもその3年間が終わったら、もう1回学校復活します」って話で、まあ校長先生が全然いい顔しないまま、じゃあ行ってこいよ！みたいな・・・感じになって。

でまあ、そこは学校辞めて、なんで辞めたかっていうと、やっぱりお金が必要だったんですよ。そのやっぱり日本の生活するのに。

当時は月3万5千円で安い料金だったんですけど、1日3回メシも出るし、まあ今から考えるとすごい安いじゃないかなって。

司会者；そうですね。

17才の僕にとっては、3年間のその費用が貯めなきゃいけないかったもんで。やっぱり学校行くヒマがないんで、それでちょっとバイトしてた先が雇ってくれるっていう話になって。

で、あ～これがチャンスだ！って思って、フルとして雇ってくれるっていう話になって、ちゃんと仕事をして、それから次の年の3月にスタートする予定だったのが、えっとまあ8ヶ月、9ヶ月位期間があって、それぐらいだったらお金が貯めれるんじゃないかな。

足りない分はお母さんが出してくれるっていう話になって。

で、そうしようと思ったら、あのデンマークの先生がどうせなら内弟子やるんだったら、この～どれぐらいバイトして貯めれるんですか？って、いやわかんないけど。

17才で全然お金なんて感覚ないから、とりあえず月に1万、2万ぐらいあればいいんじゃないかって、ポツっと言った金額が、じゃあうちで掃除しながら内弟子の練習番みたいのデンマークでやってから、いったらいいじゃないか。

で、押忍（オスッ）！の世界だから「押忍（オスッ）！」って言うしかなかったから。

司会者；そうですね。

（会場内談笑）

ペタス；全然、半年分も貯まらなかった・・・（笑）

(会場内爆笑)

でもまあそれはしょうがないですね。

まあお母さん、よく僕の面倒見てくれたなと。

まあへんな話、月に3万5千円っていう金額は、たぶん同棲して入れるより全然安かったんじゃないかな、お母さんと。

まあそれで許可っていうか、行くことになって、僕は当時は全然、今はこうやって日本語でしゃべってるけど、全然しゃべれなかった。

まあそれこそ、どれぐらいの日本語力かっていうと、空手の稽古で使う“1、2、3”の言葉と、あとは“気合い”とか“中段回し蹴り”とか。

ちょっと僕は変則蹴りが好きだったから“飛び回し蹴り”っていうのはわかってた。

司会者；はい、専門用語的な・・・。

そうそうそう。こう・・・回転してるやつなんですけどね。

司会者；はい。

まあそういうのを本当に来日して、え～っといきなり空手の寮の中に入って、でまあ～これが日本なんてもんじゃないと、僕は最初思ってたんです。

司会者；空手の寮って・・・。

空手の寮なんてもんじゃないですから、もう。日本の中のもうまた全然別な世界ですから。

司会者；はい。

まあ、こういう縦社会なんで、本当に厳しいとこなんです。

まあそれこそ、丸坊主にさせられるし、で～朝から晩まで本当に修行。

ずーっとです。休む時間ないんです。

で、もう夜の11時ぐらいには電気消されるんですけど、その朝6時ぐらいから起きて、ずーっと動いてるから電気消された瞬間寝るぐらい厳しいところだったんです。

司会者；じゃあ、1日の練習時間って当時・・・？

僕は～、あの日本語しゃべれなかったから、色んな他の日本人の内弟子がやれるような仕事が出来なかったから、僕はもう1日5、6時間ぐらいは練習してたんですよね。

司会者；毎日、空手だけで5、6時間？

空手とか補強とかランニングとか、そういう掃除とか、料理番とかも。

司会者；はい。

それこそお客さんを迎えるだけ、ずっと2、3時間立って「押忍（オスッ）！」っていう話。

司会者；はい。

まあ、そういう感じがずっと続くんですけど。

であのこう・・・今日はね皆さん『折れない心』っていうことで来ているんですけど、そのテーマがあると思うんですけど。

折れないっていうのは、僕の1番折れない、一番最初に出会った折れちゃいけないところの話からいうと・・・え〜っと、一晩寝て朝起こされて、メシだっって言われてゴハン連れて行かれたんですけど、下の食堂に。

その時に生卵と納豆と味噌汁と（笑）麦飯が置いてあってですね、その隣に麦茶があって、これを見て・・・どうしろって言うんだよ？みたいな。

（会場内談笑）

これでどうしろと言うんだ・・・。

まあ、僕は本当にあの・・・それこそ日本に空手を修行しに行くんだ！っていうことを、オレがわかって来たんだけど、まさかメシの問題があると全く考えてなかったの。

（会場内談笑）

司会者； 当時は日本に関する知識っていうのはほとんど無くてほとんど空手・・・？

だからサムライとニンジャぐらいの（笑）

（会場内爆笑）

米は別に嫌いじゃなかったんだけど、生卵だって僕、デンマークで食べる習慣全くないんです。

それをこう皆さんがバツバツ！と割って、納豆もあのネバネバがどうも臭いし。本当これ何？みたいな。でも、これしか食えない。

外行ってなんか食う、買うカネもないし、むしろ1年生が外行っちゃいけなかったの。

もう道場のうしろにある寮とここの道だけですね、外は。

司会者； 外出は禁止？

全くダメですね。それと朝のランニングコースが目白ランニングコース。当時その本部道場っていったら池袋なんですけども、3丁目3の9なんですけども。

（会場内談笑）

未だに立ってますけど。よかったら笑

ちょっと1階だけ美術館になってるんですけど（笑）

であそこから、ランニングコースと小回りだけだったんで、あの食わないとやっぱりどうにもならないんで。

司会者； そうですね。

それで僕は本当にどうしようもなかったんで、全部とりあえずコメの上のせて、あのこう・・・混ぜて麦茶を・・・僕、今は麦茶大好きなんですけど・・・

司会者；はい。

ていうか、全部今は大好きなんですけども、当時は全部嫌いだったんで、どうすんだよみたいな。

で、全部混ぜて、こうなんとかこう「アー！」て入れて、飲み込んでたんですけど。

いやーこれやっぱり・・・本当になんだろこう・・・目の前でこう・・・食事に対しての修行があると思ってなかったんですけど。

これがですね、曲げちゃいけないですね！

ここがこう・・・1日ずつこう・・・味に慣れてくるんですね。

司会者；なるほど。

1ヶ月、2か月経てば麦茶おいしく感じるんです。

それこそ納豆と卵の分け方のこだわりみたいな（笑）

（会場内談笑）

司会者；はいはい。

納豆がごはんの左側にのせる。右側が卵を混ぜて、半分ずつみたいに食べるようになったりして。

3、4か月くらい経つともうねえ、こんなにウマイ朝ごはんは無いだろみたいと思うくらい、不思議な世界なんですけど。

（会場内談笑）

皆さん、なんでも出来ます。毎日アメリカ行ったらハンバーガーも慣れますから。

（会場内談笑）

司会者；であの、内弟子の生活って通算でどれぐらいの期間？

えっと3年間ですね。

司会者；3年間・・・。

3年間、1000日の修行って言われてるんですけど、まあ実際に本当に言うと4月の15日にスタートして、その3年後の3月15日に卒業があるんですね。

司会者；はい。

だからもう本当、3年間の修行でしたね。

当時はもちろん大山総裁は現役だったんで、最後の本当1年、2年ぐらいはほとんど体の調子悪くなってたんで、僕は一緒にいるとそんな気がしなかったんですけど、ただ卒業の時は本人は入院してて、でわざわざ病院から出てきて、卒業のちゃんと顔出して、みんなと握手して、写真撮って、すぐに即効病院戻ったんですけども。

で、僕は3年間1回も帰らなかったんで、ず～っところう日本にいたんで。

1回帰ることになって、でももう最後にもう総裁としゃべったのは、その～毎週の時に食事会っていうのをやってたんですね。

で総裁が一番上で、一番前のほうに見えるような感じで、こう2列にダァーって並んでしゃべれるんですけど。

その時は1年生が一番奥で、2年生、3年生が一番総裁の隣なんですよ。

で、もう本当これぐらいの距離で「君は今度終わるんだけど、どうすんだ？」みたいな感じで。

で「押忍（オスッ）！」みたいな。

「デンマーク帰って、お金貯めてまた日本に来たいです！」って言ったら「そっかー。うちの道場で指導員やらないか？」って言って。

その時僕はちょっと強くなりかけてたんですよ。

司会者：はい。

でこう・・・全日本大会っていうのは、毎年11月にやってたんですけど。

その時は、そのちょうど3年目の時の内弟子稽古の時、初めて出させてもらって、あ、違う2回目出させてもらって、2回目の時はディフェンディングチャンピオンにタムラヨシヒロっていう、すごいがたいデカイ選手とやったんですけど、それが1回戦だったんですよ。

でもま、ちょっと空手の話になるんですけど、1回戦のチャンピオンクラスと無名のただの内弟子出身のニコラスは、本当ただの踏み台っていうか、ハエみたいな感じなんですけど、それがすごい頑張って、本当に勝つ気満々で頑張って、試合しようと思って、まあ～あの思いっきりボコボコにしたんですよ。

ぶっちゃけ（笑）

（会場内爆笑）

ボコボコにしたんですよ、本当に。引き分けになるってレフリーの人たちが目合わせてどうすんの？って、これでヤバいんだろ？って。

また引き分けになるし。

その時、僕はわからないんですけども、本当に勝つしかなかったんですよ。何より内弟子のプライドを持って日本に来て、強くなる意志で総裁の前でもうチャンピオン倒したい！みたいな感じしか頭になかったんで、一生懸命練習したし、一生懸命気持ちを込めた試合になったんですけど、この延長2回1回の時に、僕は足が骨折してしまいました。

あの～右足のローキック蹴ったら、スネの中に太い骨と横のこの細い骨があるんですけど、体重乗っかっているのがこの太いやつです。

で、この細いのが別に折れても歩けるんです。

今はヨーロッパ行くと、骨折するとギプスしないんです。

そのまんま放っておくと治るらしんですけど、当時とは違うんで。

でそれが折れちゃったんですよ、僕ローキック蹴ってて。
たぶん膝でブロックされてボキッといっちゃったんだと思うんですけど、知らないんです、興奮し過ぎて。
本当にもう、勝つしかないんですよ。
でそのまま再延長に入って、もうありえないんですよ、チャンピオンとこのハエが。

ハエの内弟子出身のニコラスが乗り込んできて、タムラヨシヒロとなんかやりあって・・・って感じで。

で結果的に言うと、あの～僕負けたんですよ、試合。

ま、判定的には負けたんですけども・・・。

司会者；はい。

えっと、そこは・・・ごめんなさい、全然話が盛り上がりすぎて（笑）

（会場内談笑）

どこまで持って行こうと思っていたのか忘れちゃって（笑）

（会場内爆笑）

そうそうそう。あ、そうそうそう！

総裁に聞かれたわけね、どうすんだ？みたいな感じで。

お金貯めて、僕本当強くなりかけてたんで、もっと強くなるためにこう～修行もったしたかったし、もっとその時も日本語普通に話せたし、もうゴハンもおいしく食べられるようになったし、もっと長くいたかったんで。

で、総裁がその試合を見てたらしんですよ。

本当は1回戦は見ないんですけども、見てたらしんですよ。

「すごいお前はもう本当、いい試合して、オレがいたら延長もう1回やらせました。」みたいな感じで。

総裁のうれしい言葉を頂いたんですけども、でまあ僕は帰ってどうこうって言って、総裁は内弟子の道場の指導員になったらどうだっていう話になって、もう1回その秋の全日本に向けて、1回チャンピオン目指してみてください！っていう話になって。

そこから僕は本当にずっと、日本にいるようなきっかけになったんですけど。

まあ、非常に残念な話すると、その口約束した後に僕がデンマークに1ヶ月位帰ったんですけど、その帰ってる間に総裁が亡くなったんですよ。

それで僕はよく“最後の内弟子”って呼ばれてるんですけども。

司会者；その3年間の内弟子生活を終えて、もうその時点で国内外の大会はご活躍なされてますよね？

そうですね。その中でも静岡県の大会でも優勝して、あと全日本大会出るようになって、全日本ウェイト制というの出るようになって、22才さっき言って

くれたんですけど、22才の卒業して次の年なんですけど。

ヨーロッパ行って、ヨーロッパ何で行ったかっていうと、4年に1回しかない世界大会の選抜大会にデンマークで出ようと思ってデンマーク代表になろうと思ったんですけども、えっと大会自体がなくなってその・・・

司会者；ヨーロッパ大会・・・。

違う、デンマーク大会がなくなって。

司会者；はい。

デンマーク大会がなくなって、何しにオレ帰ってきてんのよ？って話になって（笑）

でも来月ヨーロッパ大会あるんだけど、いやいやいや・・・みたいな。

いやいやいや、デンマーク大会なんかかなると思ったら、ヨーロッパは勘弁してよ！みたいな感じになったんだけど、でもデンマークの代表になる為には戦ってこないと話にはなんないんで・・・。

司会者；そうですね・・・。

それであの～出るようになって、であのまあ本当にお見事・・・自分で言うのもなんだけどオール1本勝ちで僕が優勝したんですよ。

非常に調子は良かった勢いがあるって、本当にやっぱりこの修行した成果が出たんじゃないかなって思うんですけども。

司会者；あの、その当時すでに世界的に、世界屈指の空手家として地位を固められてるような状態だったわけですよ？

同じ22才の時にやっぱ世界大会に出て、ベスト8に入ったんですよ。5位になったんですよ。

そこからやっぱり、もともと内弟子っていうのはニコラス・ペタスがじわじわと業界の中で、空手の業界っていうか当時はまだ大山総裁が生きてる時には128カ国っていう空手の支部があったりして、それこそ世界中のネットワークはですね、あの本当にカナダからブラジルまで、アフリカの本当にケープタウンからモスクワまで、どこ行っても空手があるんですよ。

オーストラリアでもニュージーランドでも。

それぐらいぐあーって大きい組織の中で、まあ僕は世界の中で5位にはなったぐらいで、内弟子として認められた。

司会者；あの一、まあ世界何カ国もある空手の団体で、なおかつ総裁の“最後の内弟子”というようなことで、あの一へんな言い方ですけど、空手の世界にずっといけば、ある種安泰といえますか・・・。

そうですね！非常にあのポジションは強かったし、あの～組織も大きいし、まあ変な話、一緒にずっとやっていこうと思えば、それはそれで全然悪い話じゃないと思うんですけど。

司会者；で、あの～その状態なのにあえて・・・。

聞こうとしていることはわかってます（笑）

来るよ、来るよ（笑）

（会場内爆笑）

なんで辞めたのか？って（笑）

何でK-1に行ったのかよ？って（笑）

司会者；ちょっとその太い腕とか見たら聴きづらい質問なんで（苦笑）

なぜあえてK-1のほうに？全くルールの違う新しいまだ・・・。

そうですね・・・

司会者；戦いを始められたんでしょうか？

これはあの～、実は結構複雑な話っていうか、人生の中でこういう選択道って
そうそう来ないと思うんだよ。

あえて、これを一般社会人から言うと“キャリアチェンジ”になるんですよね。

司会者；はい。

もちろんスポーツ選手から言うと、皆さんがわかりやすく言う為には『サッカー
一選手が野球選手になろうとするぐらいの違い』なんですよ。

もうトップ極めてるのに、あと1歩で世界チャンピオンになれるぐらいの人間
なのに、なんで“キャリアチェンジ”するのか？っていう話が、すごく僕もあ
の時はですね、あの～総裁が亡くなったあとに団体、組織自体がドカーンって
分かれたんですね。

で分裂して、また分裂して、また分裂みたいな。

で僕がいたその組織がなんだろ・・・ちょっとあの～・・・。

そうだね・・・どう説明すればいいのか・・・。

僕、付き合ってた女がいたんですね。

司会者；はい（笑）

（会場内爆笑）

司会者；はい（笑）

その付き合ってた女が、僕が仲良かったんですけど、まあケンカもしてたし、
でもケンカしている際にこうちょっと空手のスランプにもなって、思うような
世界トップになってるくせに、あの全日本大会ではベスト16で終わっちゃう
しみたいな感じで・・・。

なぜか上にあがらないっていうのが、すごく自分の中で不満があって、ちょっ
と1回は空手はどうか？って。

今のまんまだと、あんま楽しくないっていうか、頑張ってるのに先が見えない
っていうか。

すごいもう、彼女とケンカだらけだったんで、どうしようかな～って思ったた

時に、あるところからですね、オーストラリアで道場出してあげるよ！って言われて、オーストラリアかよ。

僕、デンマークから来てるのに・・・(笑)

(会場内爆笑)

それこそ日本遠いんだけど、オーストラリアもっと遠いじゃん。

本当に、コアラの世界で俺と一緒にコアラと空手出来るんだと思って、大興奮してしまっただけですよね。

いやーこれは行きたいですね～と思って、その時本当これたまたまのタイミングだったんですけど、あのその館長のところ行って「僕オーストラリア行って道場出してくれる人がいるんだ」って。

「今、仲悪い彼女と一緒にいこうと思うんだけど・・・」って相談したら「それはいいんだけど、お前これちょっと見てよ」って紙渡されて、

本当その時ですよ！

僕が相談した同じ日に、こう～なんか館長がポンと出したのは、僕はFEGって今はFEGっていうんですけど、K-1からオファーが書いてあったんですね。

ま、僕当時26才ぐらいですかね。

26才の時に、書かれてる金額と内容とかを見ると、まあ理解出来ないぐらいなあ～・・・。エッ、これ・・・？あれなに～、この楽しそうなリングに上がってこれくれるのかよ！？みたいな。

すごい軽い気持ちで乗ったんですよ、どっちかって言うと。

しかも海外行って合宿させてあげるみたいな。

もうやっぱ強くなるためにはアメリカに行かせるよ！

じゃ1回離れるわけですね、ここ。

ここにクエスチョンマーク付いてた。空手に対しての1回離れることが出来て、新しい修行さしてくれるってことになって。

なんでそんな軽い気持ちで受けたかっていうと、元々僕は世界大会と一緒に戦った負けてるフランシスコ・フィリオ選手っていうんですけども、まあ知ってる人もいますけども。

その人が、いきなりK-1出てアンディ・フグを一発でノックアウトして、それこそチャンピオンをノックアウトして、そのあとに連続試合を3、4回ぐらいずっとKOしっ放しですよ。

ものすごいブームならして、オレの先輩がそれぐらい強いんだ！オレまだ行けるんじゃないか！って(笑)

・・・全然話違うから。

まあ、受けたものは良かったんですけど、えっと結果的に言うと2ラウンドで

ステファンレコー選手と2ラウンドやって、TKOっていうかKO負けですね。まあ、そこから本当にまた『折れない心』の話に戻るんですけど、悔しいじゃないですか。

えー26才、27才ぐらいで、そのキャリアチェンジをしたとは言え、ちょっと軽い気持ちで乗ったくせに、まあ本当にキャリアチェンジの厳しさはすっごいわかったわけですよ。

司会者；ペタスさんとしては自信満々で・・・？

自信満々だったんです！いやイケる、イケると思って。

ぶっちゃけて言うと、スパーリングしたことないんですよ、その試合までは。

司会者；K-1のルールでは？

はい。合宿行ったんだけど・・・スパーリングは他の空手メンバー・フィリオとかグラウベいるんだけど、あとモーリ・スミス。

モーリ・スミスなんかは先生だったから、スパーリングしないみたいな感じで。オレたち3人で空手家同士でなんかその、本当にねえ～もうわかんないもん。

(会場内談笑)

空手家同士でグローブはめて、スパーリングやらしたら、キックボクシングにならないから！

司会者；そうですね・・・

(会場内爆笑)

ならないから！（笑）もう意味ないことばかりやってた。

でも一所懸命ランニングして、一生懸命泳いで、スタミナ付けて、それこそあの～ミットバシバシって、タイ人のトレーナーにミット持ってもらったし、全然意味無いことばかりやって、KO負けたんですよ。

っていうことは、やっぱこう～その移っても良かったんだけど、間違っただけで練習すると準備すると、本当KO負けなんで。

司会者；はい。

すごいわかりやすかったんですけど。

で、入ってきた金がドーンとあっても、自分と彼女がすぐ結婚してしまったんですけど・・・今の奥さんですけど（笑）

(会場内爆笑)

あの～喜んで、服とか派手にワァーって使って、あれ？2、3か月したら、もうないわ！って（笑）

なんで？なんで？？？って感じで。

でもオレが調子にのってK-1選手になったから、全然また試合出れんじゃねえか！？って思ってたなら、またそのリングに上がるのに2年かかったんですよ。でまた本当にそこで、僕も悔しいし、あの負けたくなかったし、なんか折角行

くんであれば、俺は・・・何かこう結果を残さないと気が済まないし。
それをこうお願いしたのは「1回空手を辞めさしてください」ってことで。
1回海外行って修行したし、ナメた業界をイチからやり直しだっということで。
それでこのままの空手家同士で、どん臭い空手家同士でキックなんて無いスパ
ーリングやってもしょうがないから、オレがオランダ行きたいって言ったんで
すよ。

司会者；はい。

それがダメと。

司会者；オランダ行きはダメと？

まあ、色々ややこしい世界で人のつながりが良くなかったし、でそれでアメ
リカ行くことになって。

でアメリカで僕は、そのムエタイの先生のところで、ムエタイってキックの中
で圧倒的に強いんで、ムエタイ覚えればいいかなって思って。

で、ムエタイを覚えながらボクシングもジム通ってたんで、その2つくらいで
組み合わせれば、自分が持つてる格闘技の能力に対しての、なんとかこう組み
手がつながるんじゃないかなと思って。

それで2年間ぐらいの修行をやって、え～戻ってきた試合がですね・・・いき
なりバンナだったんですね（笑）

（会場内談笑）

いや～皆さん多分見てないと思いますので、よければあとでYOUTUBEで
チェックしてください（笑）

ペタスVSバンナ！ これ笑えますよ（笑）

（会場内談笑）

もうテクニクっていうよりも、ハート1本で戦ってます。

もう本当にすごいい試合だったんですけど、そこで僕もその間にあの～全く
K-1と別なところでもアメリカでキックの名前変えてあがったんですよ、ア
マチュアの大会に。

司会者；あえてアマチュアの大会に・・・？

ニコラス・ジャンジラっていう名前が出たんですね（笑）

勝ちましたから、良かったですけど（笑）

それがたまたまですけど、その何年後にK-1アメリカ、USA大会が開かれ
て・・・。

司会者；はい。

そこにカータ・ウィリアム選手、そいつとアマチュアの試合でやってさ、俺が
勝ってるんですよ。

でそれが、何年後にチャンピオンなったアメリカのチャンピオンになった後に

覚えてないんです。

で、うちがジムやってて、つながりがあってうちのジムに来て、ミット持ってあげて、スパーリングして仲良くなって、1回お酒があーっと飲んで、その2年3年後に古い写真を見だしたら、この勝った試合の時の、アメリカの勝った試合の写真が1枚だけあるんですよ。

司会者；はい。

（笑）それが刺青（イレズミ）入ってるわけ、その黒人が。

あれ？どう見てもこれ、カータ・ウィリアムじゃないか！？って。

それはそれすごい、なかなか自分の中の宝物に・・・。

（会場内爆笑）

司会者；でも、その合宿を得ましてペタス選手は、2001年に決勝で武蔵選手を倒してのK-1日本の覇者ということで・・・。

そうですね・・・非常に気持ちいい試合でした。

じつはあの～なんだろう武蔵さんは、全然レベル高いんですよ。経験もあったし、あの本当にそれこそ2年も連続でチャンピオンになって、3連覇をする大会でポツッと僕にやられたんですね。

まあアンディ選手が亡くなった次の年なんですけど、その年だったか次の年だったかわかんないけど。

とにかくその後で、アンディメモリアル大会で、その役としてちょっと外人1人くらい入れれば盛り上がるんじゃないかって話で、多分なったと思うんですよね。

でどうせなら、勝てないだろうって多分読まれてたと思うんです。

あの大会側には、やっぱり武蔵をヒーローにして・・・って感じで多分。

そういう絵だったと思うんですよ、多分・・・なんとなく。

でも真剣勝負になると、本当何があるかわからないってということで、ただ僕は武蔵と本当にそれこそ最高のライバルなんですよ。

やっばこう、K-1の大きい舞台に本当にもう1回挑戦していくのであれば、日本の中で一番強い男として極めないと話になんないんじゃないかな？と思って、僕は勝手に思ってたんで。

だからどうしてもあの大会は本当、タイトル取りたかったんですよ。

だからもう、あの気持ちでもう最後闘っていたんですけども、でもやっぱりそれこそ合宿の内容が良かった、スパーリングの相手が良かった、まあ本当行った先の得たものを手に入れて、全部そこでうまい具合に出し切ったところで、僕が本当に倒すことが出来たんですよ。

司会者；あの一お話を聞いておりますと、直前の海外の合宿であったりとか、また内弟子時代はずっと集団生活ということで、あのキャリアの中で多くの時

間を共同生活とか合宿とか、そういった時間を過ごされてるのって、結構多いですよ。

そうですね。合宿は本当たくさん形で今までやってきたし、それこそあの修行者としても空手のデンマークの合宿から始まってんですけど。

それでデンマークの合宿って1週間なんですよ。

で、1週間の中で飛び級がするんですよ、最後。審査を受けて飛び級しちゃうんですよ。

司会者：はい。

であの～、日本の合宿が普通の空手の合宿がまだ2日、3日間なんですけど、でその本当のプロの試合に向けての合宿とか、それこそ武蔵と闘う前にあの～海外行って、あのモーリ・スミスのところに合宿をして、え一本当に勝つための修行をするための合宿で、自分が一人追い込まないといけないとか、先生がいるかないかでえらい違うし、あのまあいかにどこまでストイックに出来るかってこと。

自分を試している期間ですよ。

集中してガア～って、このゴールに向かって、これを手にいれるためにギャってやると、まあ非常に短期間で人間として成長すると思うんですよ。

で、目標があるとそれをこう・・・やっぱ目標があるからこそ、それに向かっていけるんです。

司会者：はい。

迷わず。それはやっぱ合宿のいいとこだと思いますよ。

それがまあ、今のこういう年齢になると先生としての指導者としての合宿の立場でやるんだけど、あのこう組み立てて、こう生徒さんたちと一緒にいくって、そういう合宿でどうすんだって感じの。

どんなことを伝えたいのか？ え～どんなコミュニケーションを取りたいのかね。

僕基本的に、あの格闘技のジムって何かっていうと、格闘技を通じてもしくは武道を通じてのふれあいの場だと思うんですよ。

来て、体も鍛えるんだけど、心も鍛えるっていうテーマなんです。

そういうところで、合宿じゃあ普段だったら道場行けばいいんじゃないですか？じゃなくて、あの自分にとっても、合宿に行って帰ってきたんだ！

それこそ富士山に登って帰ってきたんだ！って、それくらいの気持ちが残ってもらえればいいかなと思って。

だいたい合宿に行くメンバーはですね、その翌週とかあの歩き姿を見るとね、ちょっとね・・・ちょっと背が伸びた気がするんです。

胸張って歩けるようになる。あ～オレ、本当心強くなったみたい。

それぐらい気持ちがいいんですね。

先生としてはこうやって一緒に合宿して、まあそうやって、こう・・・人間がこうパワーを感じた、勢いをもらったっていうか・・・。

司会者；それはこう・・・集団で同じ目標に向かって何かを成し遂げたっていう・・・？

もちろんそれもあるし、あの格闘技ってちょっとね、何か他の団体、チームスポーツと違うのが、本人の中の修行ではあるんですけど、相手がいないと修行にはならないんで。

一人でね、あのサンドバック叩いても、そりゃなんとか修行になるかもしれないけど、空手の場合はやっぱこう・・・僕も格闘技のやり方、キックも一緒なんだけど、空手もそうなんですけど、こうみんなでやるとみんな強くなるし、疲れた時に引きあげてもらおう。

こっちが元気ある時に、オレに付いてこいっていうぐらいの勢いでやりたいんですよね。

そうするとみんなの力がワァーと味わって、その中から強いのが出てくれば、みんながその強いやつをオレたちが作ったんだよって。

出来たらみんながその強いヤツになりたいって思ってもらいたい。

その強いヤツはオレがなるんだよ！

みんながそんな気持ちでいたら、本当みんな強くなる。

司会者；そうするとあの～、ペタスさんは格闘家としてももちろん一流ですけども、その他今俳優とかタレント活動はもちろんですし、あの～さまざまなプロデュース活動なども行っておりますけど、あの～空手を通して得たものとか、あの～その空手の修行を通して得たものっていうので、一番空手を通してあるいは集団生活を通して得たものってなりますと、どういったことになりますかね？

一番っていうのはあれだけど、すごい単純に言うとやっぱ格闘技の修行っていうと「オスッ！オスッ！」の精神だから、押忍（オス）の精神ってなんだろうって言ったら、『押して忍ぶ』みたいな感じで、言葉にするとちょっとわかりづらいっていうか、そんなもんだ・・・じゃなくって、本当に生き方を変えるんだよね。

生き方も押忍（オス）の精神って、どうやって変わるかっていうと、あの自然にこう何だろ？“追い風じゃなくて、向い風が来た時それに向かう心づくり”だと思っうんですね。

空手の修行とか格闘技の修行と違って。

でそれをどっか、なんかピンポイントでここでそれを覚えたんだよ！ではないんですよね。

司会者：はい。

ないからこそ、ずっとこう修行を続けなきゃいけないし、あのそれこそ武器を磨かなきゃいけないんです。

バイクだってね、エンジンのオイルとか入れないと走らないくらいの、自分もそれなりのプロセスの中で、あの油断しちゃうとある意味では向かい風が来た時に、ふうっとちょっとよけたくなる気持ちも出るから。

それはもう、人間みんな一緒なんです。

僕はなんだろう、本当に大ケガを何回もしてるんで、それこそ試合なんかで、蹴って足のスネをポキッと割り箸みたいに折れたことがあるんですね。

これ右足今、の鉄の棒が中に入ってるんですけど、その時はえ〜っとバリバリこう武蔵を倒したあとだったんで、また次のトーナメントに向かった試合なんで、オレのローキックがどれだけ強いかって時代だったんで、それをローキックで証明するよ——！！って言って、オレが空手家でプライド持ってるローキックでアイツ倒すんだよ——！！って思ってたら、そのローキックが折れた。

まあそれこそ、オレ今までなんだった？

この15年間の空手の修行は、ここで足1個で足蹴り1本でバンって、全部飛んじゃったのかな〜？って。

もうゼロからのスタートなんだって。

もうそこからのスランプがまた入って、まあへんな話、えっとちょっと長くなるんで、今日はまとまらないんですけど・・・あのこう落ちるまで落ちるんですね。

なんでそこまで落ちるかっていうと、それこそやっぱり自分の自己管理が出来ない時があれば、こう自分のこう・・・一番人生の中で自信持ってたものが、こう一瞬で失われた気がするし、そういう気持ちになってたし、それでもうキャリアチェンジって話がさっきあったんだけど、そこまで行って全部パーになったんじゃないかって。

あの一仕事は無くなるわけ、お金も無くなるわけ。で、子どもが増えるわけ・・・。

で、どうすればいいの？（笑）

（会場内爆笑）

だからそういう時は、オレが何が一番空手から得たものかっていうと、やっぱりこう本当に落ちるまで落ちたら、上に上るしかないなって。

どうやってそこを上るかっていうと、やっぱり初心に戻る！

気持ちをリセットして、日本に行きたい！日本で大山倍達（おおやま ますたつ）に空手を学びたい！ニコラス・ペタス戻ってみろ！

自分にこう言い聞かせて、そこから這い上がって、今日皆さんの前でしゃべる

ことが出来たんです。

(会場内爆笑)

司会者； だいたい、おケガされてから復帰までされるのって期間的には？

えーっと、3年と4ヶ月かかったんですね、あのスネ折ったあと。

それはそんな時間かからないんですけども、体の調子がえっと実際言うと、1年、10ヶ月、半年位で歩くんです。

司会者； はい。

杖なしで。その時はもうすごい気持ち的にも色々あったんで、ものすごい太ってたんですよ。120キロまで体重あがったんですよ。

あんまり今と変わらないんですけど(笑)

今、110キロ(笑)

(会場内談笑)

で、当時はね97キロ位から120キロ位までってすごいことになってたんですね。

でまあそれを少しずつトレーニングをし始めて、リハビリちゃんとやって、で10ヶ月くらいで102キロ位まで体重戻って、本当にもう体が完全な状態に戻って、また試合出来ると思って。

先生が今80%なんで、ちょっとだけ気を付けてって言われたんですよ。

でももう、思いっきりサンドバック蹴れるし、全力も走るし、ダッシュも出来るし、ジャンプもなんでもありかなって思ったら、スパーリングやり出した瞬間また折れたんですよ。同じ場所。

蹴って。これぐらいの力で。パッ！あ〜っ・・・て。

棒入ってるんで、ズレることはないんですけど。

司会者； はい。

もう〜**よんはんかいき**っていうんですけど、髪の毛1本くらいの本当に、ピキッと割れ目が入ったんですね。

で、そこからまた6ヶ月ですよ、歩くのに。同じですから、そこからまたリハビリ。

それがまた悔しくて、また試合出ようと思ってやり出したんだけど、2回も折れた時にあ〜もう無理だ！って。

これで3回まで折れると、体の中にそこに関節ができるって勘違いするみたいなんですよ。

そうするとこうやってくる骨がこうするんですよ。

で、何をしなきゃいけないかっていうと、切って割れ目を入れてく。

くっ付けなきゃいけないから。

これちょっと複雑な話なんだよね。

それを聞いてビックリして・・・ちょっと待つてよ！みたいな。

で、ボルト抜くんですよ、そのうち。

完全に治ったあとに。その時も練習してたし、スパーリングもやってたんで、1年ぐらい1年半ぐらいかけて、でももうそこで2年近く時間かかっているんだけど、ボルト抜いたら試合したいなって思って。

2年ぐらいかかったんだけど、そこで政治家の政治的な問題が出てきて、日本では試合が出来ないって話になって。

どうしたらいい？どうしたらいいかわからない・・・って、当時はもうジムは赤坂、野木坂のほうで出していたんで、忙しかったんだけど、どうしても試合したかったんですよ。

それで、ヨーロッパのほうからオファーが来て、で10月9日、その年の10月9日なんですけど、ヨーロッパ行って復活戦して、なんとかそこで2ラウンドでTKO勝ちしました。

いやー、すごいよかったですね。

めっちゃくちゃ怖かったんですけど。

ここだけの話なんですけど、あの試合でまた足が折れた（笑）

（会場内爆笑）

これが本当の話です。

行って、昔その～タムラヨシヒロの試合した時と同じくらいだったんですよ。

細いやつがまた別な場所で折れたんですよ。

あの2ラウンドとか1ラウンドとか全くわからないけど、同じなんですよ。

もう本当わからない。

一生懸命勝ちたいだけなんで。

んで、ミドルキックやったら、かすったんですよ、こういう風に。カツンって。

そしたらボキッっていったんですよ。

でもわからないです。

まあ、勝って次の日病院行って、それこそさっきの話なんだよね。

ギブスしないってのがいるのはそこなんですよ（笑）

（会場内爆笑）

あの、オランダの病院行って見てもらったら、「あのいいよ帰っても。」「はい？なんかないの？」

「いや、今こういうあれで、何も付けないそのまま放っておいて治るんだよ。」って。

でも本当に放っておいたら、治ったんですよ。

司会者；骨はもうくっ付きちゃったんですか？

いやいや、くっ付くんですよ。2、3週間くらいで。

それなりに。

本当はそこはなんだろ・・・僕ちょっとね、調子にのってたんですよ。

すぐ調子にのるんですよ。

治ったら、普通にこう歩き出して、ジムの生徒がロシア人の2人がいたんですよ。

すごいパワーがあったやつで、でもローキックの蹴りが間違ってたんで、ちょっと持ってあげるからローキックのミット。

そしたら持ってたのは良かったんですけど、それまで普通に歩いていて、蹴られたらまた折れたみたいな感じで。

それでまた病院行って、1週間2週間くらいギプスはめて固定したほうが早く治るって言われて、それでちゃんとやってすぐ治したんですけど。

ま、それからまたね、日本のK-1のリングにあがるのには1年くらいかかったんですけど、でも日本ではどうしてもみんなの前で試合するっていう約束したし、それをこうあのダイナマイトでバタハリとやってですね、1ラウンドでミドルキックやられて、腕が折れたんです。

これは正直に言うのはあれですけど、僕は別にね骨がもろいとか・・・(笑)

そういう話じゃないんですよ(笑)

(会場内爆笑)

じゃないんですけど、本当にアクシデントが多過ぎるんで。

でももう人生の中には、別にそれこそまあ向かい風が来た時に「前に前にくそっ！」って思いながら前に行けばなんとかなるんですよ。

それはもうやっぱ僕の生き方がそうなるから、腕折られようがなんとかちよっとあまりビクッってこないですね。

司会者；あの～、まあそのケガを乗り越えるための自信になっているものって、毎日続けてきたトレーニングだったりとか、その初心を忘れないということだったりとか、他何かございますか？

すごいたくさんあるんですけど、時計がね～すごい気になるね～(笑)

あと5分くらいでどこまで話せるか、どうまとめればいいのかなんて思うんですけど(笑)

いやいやたくさんあるんですけど、さっきの活動の話をここの場を借りて宣伝しようかなって思うんですけど。

え～と毎週日曜日の12時からFM横浜で番組やってます！

良かったら聞いてください(笑)

昼間の12時から(笑)

(会場内爆笑)

お陰さまで強くなるとね、いろんな話に来るようになるんですよ。

演技の話も楽しいし、まあ演技はなんで出来るかっていうと、僕も演技の練習したことないんです。

する必要ないと思ってるんで。

それが役者さんによって色々あると思うんですけど、考え方によってセリフってこれが一番印象的な言葉なんですけど、あのハリソン・フォードが言ったんですね、昔。

彼はもうね、世界トップブランドの役者さんなんですけど、あの人は面白いこと言ったのは、演技ってなると別にあまり気にする必要ないんですよ。

セリフを覚えて、あと芝居の中で物を落としたり、ぶついたり、ぶつかったりしないように注意すれば大丈夫って。

それで一言言ってたんですよ。

なんでそんなふうに言うかっていうと、あの選ばれた時点で、この役に君が合ってるってことなんだ！って。

あとはそのセリフとやりとりをちゃんと頭に入れて出来れば、自分らしく出来ればそれがもうそのストーリーになっちゃうんだって。

それは僕も、それだったら僕も演技出来るんでないかなって思って。

お陰さまでいろんなドラマとか出さしてもらって、色々出さしてもらってるんですけども、まあ本来ならそれでメシ食いたいんですけど（笑）

難しいですね、それはそれで（苦笑）

司会者； えー、あのまだまだ心と体の豊かさについてお伺いしたいことは山積みなんですけども、時間の関係がありますので、最後に私どものTERAKOYAの出演者さん最後同じ質問してるんですが、ニコラス・ペタスさんにとっての幸せとはなんですか？

幸せっていうのはね・・・僕にとってはね～一言で言えるんですけども『家族愛』です。

うん。えっとね、家族の中で元気がないとか愛がないとか、こう・・・帰った時に本当に家に帰ったな～っていうのがないと、一番辛いんじゃないかなと僕は思う。

その代わり家族が1グループとして、ちょっと1チームとして本当にこう固まってる時の幸せが何よりも大切じゃないかなと思うんですけども。

あのすごい大まかに言うと、みなさんが家族がちゃんとあれば世界平和までつながると思うんですよ。

なぜかっていうと、うちが平和だったら隣が平和だったらケンカする必要がないわけですよ、そんなもん・・・って思うんですけど。はい。

幸せってやっぱり家族を大事にして、子供を育てる親のチームワークだと思うんですけど、はい。

司会者；はい。ここであの一度セミナーのほうを終わります、でこのあと質疑応答の時間に入らせていただきます。

司会者；それでは・・・

質問者1；あ、はい。えー今日は貴重なお話ありがとうございました。えっとあの～今日は『折れない心』っていうことだったんですけど、僕は実際そこまで今まであまり自分を追いつめてなかったと思うんですよ。

で、折れる折れないっていう前に飽きっぽくて、どんどんどんどん次へ次へ行っちゃったりとか、もしくは自分がブレてるなって思う時が結構あるんですけど・・・ペタスさんはそういう時がありましたか？

もしあったとしたら、そういう時はどうやってブレないようにとか、ちゃんと自分が行くべき道を見つけようとして見つけられたのかっていうことを、ちょっとお聞きしたいんですけども・・・。

うん。すごい今いい言葉を使ってくれたと思うんですけど、ブレるっていうのは誰でもブレると思うんですよ。

僕もブレたし、あの～これがたくさんブレると思うんですけど、でもブレていいんですよ、人間！

最終的に、そのなんかこう～本当にしたいかしたくないかは、わかんないと思うんだよね。

で、本当にしたいかしたくないのかって、それは1回辞めてしまえば本当に好きかどうかわかるんですよ。

この前のイヤな話と一緒になんですけど、1回別れれば、いやヘンな話、一番好きな時に1回別れればそれで1ヶ月とか2ヶ月、半年とか1年でじゃあ一緒にいなくて良かったって、もう忘れるって。

あ、わたしの隣にいなくて良かったんだって思うのであれば、それはそのままですけど、どうしてもそうじゃなきゃいけないっていう、自分がそれが好きなことであるのであれば、1回離れてみれば、絶対これオレがやんなきゃいけないんだっていう、僕もあの空手もそう思うんですよ。

僕もブレたことがあります、何回も。

それこそ捨ててるし、2回も。

本当に好きだったら、戻るか戻らないかそれはもう自然にこう行くんですよ。

そうするとブレなくなっちゃうんですよ。

質問者1；あ～。

で、ヘンな話・・・ヘンな話じゃないんですけど、ヘンな言い方かもわかんないけど、ブレるまでブレてみ！

じゃ試してみい、本当に！

どうせブレるんだったら、ちょいブレはいらないから割り切ってブレろ！みた

いな（笑）

そうずっと、ワァーって「やっぱオレこれなんだよ」って。

自然とこうなってくると思うんですよね。

それがいいんですよ。

ちょっとう柔軟性があるっていいと思うんだけど。

質問者1；わかりました、ありがとうございました。

司会者；次の質問の方・・・？

質問者2；ペタスさんが、えっと昔例えば日本に来る前の自分に、今の自分が何かこうアドバイスっていうか、色々な経験を積んだ上で何かまあ、スランプに陥った時でもいいですし、何かこう助けを求めている時の自分に何か一言あるいはこういうふうにしるよ！みたいなアドバイスをするとしたら、どういう風にアドバイスしますか？

毎日牛乳飲め！と（笑）

（会場内爆笑）

それはもちろん冗談ですけど・・・（笑）

えっと・・・どうですかね～？

それこそさっきの話になると思うんですよ。

あの本当にブレるなら思いっきりブレてみ！っていうのがいいと思うんだよね。でもまあ好きだった真っ直ぐ走るし、迷わずに生きるし、だからそのよくこ～好きかどうかっていうのが、わかんない。

ここいってる話だと思うんですよね。あの～それこそそのなんで好きかって、自分によく聞いたほうがいい。

本当なんで好きなのか。どこが何がこれがいいのか？

誰かの影響で好きになったのか、なんとなく流れの中で好きにならなきゃいけないのかな～みたいな感じで。

オレがぶっちゃけいうと、リングとか戦うのでそうなったんですから。

雰囲気だから、全体的の。

オレは選手とか目指してなかったから。

自分の中では大山倍達（おおやまますたつ）の弟子になるためにはベストキックっていう映画がやってて、その影響力もあってなんか空手に入ったんですよ、実際に言うと。

そん中で僕は、先生とかの位置のこの関係で強くなりたいって、本当気持ちはそこだけだったんですよ。

日本来てから強くなる！強くなる！って。

全日本大会ってこうなんかワァーってなってんのに、みんながそうしてるのにオレもしなきゃいけない。

しかも道場でポコポコにされるし、それも悔しいし。
だからその～、その中で空手を強くなって、強くなった後には何が残ったかって言ったら、修行ほうが好きなんですよ。単純に。

そっちのほうが楽しい。

プロの世界に行かなくて良かったし、でもいかなかったら、今日の出会いもないし。

だからその中で何が出来るか、やっぱ“きっかけの人間”になれればなあ～と。
で、僕は昔の自分には何のアドバイスが出来るかって言ったら、そのスランプ
入ったとか、入ってないっていうのか・・・。

好きだったらまっすぐ走れば良かった・・・としか言いたくないんですね、はい。

だと思えますけど。

質問者2；追加でいいですか？

どうぞ、どうぞ！どんどん言って下さい。

質問者2；はい。ペタスさんにとっての“強さ”ってなんですか？

“強さ”？

えー、“強さ”がですね・・・朝起きた瞬間、自分の気持ちがどうなっているか。
うん。目が覚めた時に、よっしゃ！って、今日はなんかやろうぜ！って言うの
があるのであれば、絶対これから強くなると思う。

何に対してでもだよ。

今日やるぞ！みたいな。で、それが無い時はこう・・・弱いっていうかインパクトがない。

今日なんのために生きるのかな？

実際に言うと僕もこんなアツい話になると思ってなかったんですけど、なんか嬉しいなって。

(会場内爆笑)

今日来て良かった！本当に。今日は2回も練習してるんです。運動してるんです、はい。

なんかよし！今日は！

あの僕最近、股関節の手術したんですよ、2ヶ月ちょっと前に。

で今、人工股関節になってて、全部ここ“鉄”なんですよ。

だからちょっとオーバーウエイトしてるんで。

それをちょっと落としてる最中なんですけど、あの～これをまた同じプロセスとか何回か繰り返してるだけなんで、だいたいこうパターンが見えてるんで、年内にはまたカッコイイ体になってるんじゃないかと思うんですけど。

それをこう今日は1日のスケジュールの中で、昨日のスケジュールと今日のス

スケジュール、明日のスケジュールと見ると、こことこの練習する時間があるんだったら、さっさとやりたいんですよね、今。

だから今日も有効に使って2回もやってるし、今日もまたみなさんとアツイ話してるんで（笑）はい。

質問者2；ありがとうございます。

司会者；どうぞ！

質問者3；あの～今後の～というか、人生の目標はなんですか？

目標は・・・目標はたくさんあるんですけど、あの～さっきちょっと、ちらっとかじったんですけど、“きっかけの人間”になりたいなと思う。

なんのきっかけか？っていうと、やっぱりその『折れない心』の話は、非常に僕は直訳してる“押忍！（オス）の精神”だと思うんですけど、もうちょっとこうあの～伝えておきたいなと。

触れ合ってもらいたい、こう味わってもらいたい、多くの人たちに。

その1つの今回はこういう出会いがあって、こういうテーマがあって・・・の場だと思うんですよ。

ラジオ番組もそうだと思うし、道場もやるんですけど。

道場はちょっと別な表現の仕方があるんですけど・・・あの一般企業さんの一般社会の人たちには、こんなにこう日本の中にすばらしい精神力があるのに、あの触れ合っていない、味わったことないってことになる、非常に僕は寂しいなと思う。

みんな大まかに言うんですよね。日本人がどうこうのって。

僕はそうは思わないんです。決して。

日本人のコアは未だにあるし、まあヘンな言い方ですけど、僕が言ってる場合じゃないし、こうダメだよーって。

それこそデンマーク行ったらみんなダメだし、アメリカ行ったらみんなダメだしって、世界中には今こういう流れになってる。

どういう流れかっていうと、僕はその1人の格闘家からの意見から言うと、自分の体とこの・・・あの電気製品の体の中の分かれてるんですよね。

僕もパソコンフェチみたいな人の一人なんですけど、でもまた自分の体と交流が出来てる、交流っていうかコミュニケーションが取れてるから、それこそ自分もずっと格闘技やってきてるから、まあ割り切ることもできるんです。

どっちも出来ちゃうんです。

それこそスイッチオンすれば、あのどっちも好きだしみたいなの。

でも、自分の体と一般のそのOLさんでもそうだし、サラリーマンでもそうなんですけど、やっぱこうこの世界の出来上がってる自分があるわけ。

で、付き合いとかメシもそうだし、めちゃくちゃにする私生活とかになると、

あのメタボが増えてるとかって言ってる。でも、しょうがないんです、これは。自分のことを知らないからそうなっちゃうんです。

やることに対して、一生懸命すぎるんでここでしなきゃいけないことが、自分とのコミュニケーションがもう薄くなる。

もしくはどんどんなくなってしまふ。

そうなってくると、“押忍（オス）！の精神”とか、どうこうっていう言葉が通用しなくなるんですよ。

だから僕は、それをちょっとでも自分とのコミュニケーションを取り戻して、本当の人間ってどこにあるのよ？って。

自分の心を何がしたいのか？

じゃあ、あると思うんですよ。

仕事終わったら、お酒でごまかして次の朝まで寝て、でまた仕事。

また週末になると、家族サービスっていう言葉がすごい僕はね、それは間違ってると思うんだよ。

何が家族サービスだ？サービスなんかいらねえよ。

家族だから！それチームワークよくしておけばいいだけの話。

仲良くしておけばそれはさあ、それはサービスっていう言葉なんか全く必要ないんですよ。

サービスは仕事してるからお金持って帰ってくるんだから、それがサービスなんだよ。

当たり前なことなんだけど。

だからそのもっと人間がそれに気づいてくれるような、きっかけの人間になりたいなって、僕の目標はそこにあるんじゃないかな。

質問者3；はい、ありがとうございます。

質問者4；はい！

司会者；どうぞ！

質問者4；大阪から来ました。貴重な話ありがとうございます。ブログを拝見したんですけど、トトロやポニョが載ってたんですけども・・・

はい（笑）

質問者4；ニコラス・ペタスさんは心が疲れた時に、ジブリなどを見られるんですか？

えっと・・・（笑）

（会場内爆笑）

司会者；するどいご指摘です（笑）

かわいい質問で・・・ありがとうございます！

あの一大好きです！めちゃくちゃ。

それこそうち子供いるんで、あの～なんだろ・・・あんなステキなアニメとストーリーと、癒される世界がないんじゃないかなと。

もう僕、ディズニーの話より全くそっち系は興味ないんで。

やっぱ宮崎駿もファンタスティック世界が、本当になんだろ・・・何回観ても飽きないんですよ。

本当に飽きない！わかります、みなさん??

もう文化は1つになってるんですよ。

トトロとかいくと幼稚園に行っても、あの運動会なんてなるとトトロの曲とかみんな出てくる（笑）

（会場内爆笑）

あるこー♪

いやーすばらしい！！本当、すばらしい！

あの一、そうですね。

本当好きですね。癒されるっていうよりも、これちょっと個人的話しちゃうんですけども・・・。

うちの一番上の娘が、今年12月で10才になるんですけど、まだ幼稚園に行っている時に、僕は生まれてから英語でしか会話したことないんですよ。

でもまわりが幼稚園とか、お母さんも英語しゃべれないんで、あの～ずっと日本語なんですよ。

自分と嫁の会話も日本語だし。で、テレビ付ければ日本語だし・・・。

で、英語しゃべれる方法いなかったし、本当ずっと日本語だったんですよ。

僕ずっと英語で喋ってるんだけど理解してるし、日本語で返ってくるんですよ。である時に、あの一僕はいつもバイクで乗せて、幼稚園に連れて行ってたんですけど・・・。

でその朝が、これトトロの話なんですけど、トトロの映画を朝ごはん食べながら観させてあげてたんですよ。

それでまだちっちゃかったから、こうやって座ってみてるんですよ。

で、こう出てきてジャンパー着て「カモン！カモン！ケイビカムゴーナウ？」って普通に英語で言って、行くぞみたいな感じで。

そしたら完璧な英語で「Daddy, but I wanna watch movie！」

もうなんかね～この瞬間がねー（笑）・・・なんとも言えないですね～。

（会場内爆笑）

で僕も隣に座って「オーケー」って。

（会場内爆笑）

その日は休みましたね。

（会場内爆笑）

もう～トトロのお陰ですよ（笑）

（会場内爆笑）

そっから英語しゃべれるようになったんですけど、ちょうど3才ちょっとだったかな。ハイ（笑）

司会者；先ほどセミナーの中でも言っていました“家族愛”っていうものにつながってくるお話なんですよ？

だと思います、ハイ（苦笑）

司会者；音声をお聴きの方はわからないと思うんですけど、ペタスさんの顔が真っ赤ですごい・・・やさしいお顔になられています（笑）

暑いだけです！（苦笑）

（会場内爆笑）

質問者4；ハイ、ありがとうございました。

司会者；それでは他にご質問ある方？

質問者5；もう1個いいですか？

司会者；どうぞ！

質問者5；プライベートなお話が出たついでに～、あの～奥さんとケンカは今でもなさるかと思うんですけど、どうやって仲直りをされていますか？

（会場内爆笑）

ひたすら謝る！（笑）

（会場内爆笑）

いやいや！（笑）あの～うち、あんまケンカしないっす。あの～なんだろ・・・本当ちょっとあんまケンカしないっす。

質問者5；じゃあ～ケンカしない秘訣は？

うーん。しないっていうか、ケンカのこう・・・なんだろ。

次の日には持っていかないこと。

その日は別に怒って先に寝るとか、いいよもう！オレ映画観るよー！とか有りなんだけど、次の日起きたらもう普通なんですよ。

2日3日間続いたケンカなんて全然ないんですよ、この何年間も。

なんかそういう仕組みっていうか、そういう流れでガガァーってアツくなってるんだけど、もうなんか一晩寝たら別にいいんじゃない？みたいな。

で、どうすんの？みたいな感じになっちゃうんだよね。

だから、仲良くするのにこれケンカ出来ないと思えないと思うんだよね、本当は。

ケンカって面白くないんだけど、あのそれこそお互い意見が思いから、こうしてほしいとかもしくはこうなってほしいとか、ああしたいとかあるからこそケンカなるんでね、たまには。

それはいいと思うんだけど。

ただそれで仲悪くして、引きずって引きずってみたいなんじゃなくって、ヘンな話そこでワァーってやったほうが終わりじゃないですか。

と思うんですけど、まあ多分仲良くするためには次の日にまでは持っていかないことだと思うんですけど。

まあ豊かな心っていうか、許してあげるぐらいの気持ちでもいなきゃいけないし、相手の気持ちもわかりあうっていうか、どうせならそのチームワークがないと成立しないと前に進まないし。はい。

質問者5；はい。

いや〜どうっすかね？（笑）

質問者5；ありがとうございました。

司会者；どうぞ！

質問者6；今、指導者としてもご活躍されていると思うんですけども、人を指導する上で、ペタスさんが一番大切にしていることとか、常に意識していることがあれば教えていただければ・・・。

え〜と、うん。いい質問！

僕は世田谷のほうには、イーファクトリーっていうプロ選手専用のジムがあるんですよね。そこは本当選手しか育たない、ていうか募集もしていないし、年に1人ぐらい増えるか増えないかぐらいな感じなんですけど、でそのアツイチームも育てる意識の上では、精神力はまあそれこそ鉄は熱いうちに叩くんだ！っていうような、僕の考え方であって、えっと若いうちは本当頑張ってもらってます。

それをこう悪い言い方すると、ず〜っとオレがケツ叩かなきゃいけないにいるんですけど、あの〜出来たらやっぱりその気持ちを受け入れてもらって、もしくは学んでもらって僕がいなくてもそれが成立できるような人間づくりをオレがしたいな〜と、ずっと思ってるんだよね。

これはなかなか難しい話です。

出来たらあの〜最後はこう一人でやれって！

出来んだろ、ここまで来たら！って言えるようになりたいんですね。

そこが目標だと思うんですよ。

あとはやっぱ空手の指導をするって、それは一般人に向けてやらないんです。そこはまあ大人向けの教室だけでなんですけど、そこはまあ何を一番心がけているかっていうと、いかにもこう・・・この芯の通ったような練習がしたいです。

自分が行って楽しくやれないと、相手も楽しくないし・・・。

それを指導者として心がけてるんですね。

楽しくやることです。

で、難しくないんです、好きだから（笑）

僕は好きなことを見つけてるから・・・出来るんです。

そういう話だと、すごく単純にいうと、好きなことを見つけることです。

それを一生懸命やることだけです。

いかがですか？（笑）

質問者6；もう1つ・・・？

どうぞ、どうぞ！

質問者6；先ほど、宮崎アニメの話が出てましたけど・・・

はい。

質問者6；ペタスさんが感じる日本の良さとか、日本人の魅力みたいなものがあったら教えてください。

うん。いっぱいあると思います、日本の良さ。

え～っと日本人のこだわりが好きです。

え～職人さんとか食事に関してとか、自分の仕事の、なんですかね・・・振られた仕事に対してのこう責任感。

こう、中途半端にはしないところが好きですね。

あとはこの間も同じ話をラジオでしたんですけど、えっとやっぱこう・・・日本人が“気を遣う”という言葉とか、“空気を読む”とかいうのは、多分日本しかないんじゃないかな・・・。

そういうところは、僕は非常に世界に学んでほしいところなんですけども。

例えば、お店に入ってお水がポツンと持ってかれるだけで、いらっしやいませ！っていう言葉からありがとうございます！っていう言葉まで、それが本当の自分の気持ちで、お店に入っていらっしやいませ！とかいう言葉はいっぱいあると思うんですけど、そういうご丁寧な言葉。

でもあれは無理して言ってるんでなくて、もうそういう社会っていうか、そういう心ですよ～日本人は。

だからそれが、例えば僕は・・・本当世界中ほとんど全部まわってるんですけど、いろんなことで。

ルーマニアとかロシアとか行くと「“ボン！（音）” なにい？」みたいな。

（会場内爆笑）

物持ってくるのとダーン！って行って、「あ～？何が欲しいんだよ？」みたいな。なんで逆ギレされてるんだよ？みたいな。

（会場内爆笑）

おかしいぞ！みたいな。カネ払ってんだよ！みたいなね（笑）

（会場内爆笑）

そこはやっぱり・・・商売の話なんですけど、ヒントになるかわかんないけど、僕は日本で生活するんですけど、この心遣いをこのサービスとかこの良さを、どっか海外に持っていけてそういうお店を作るとかになるのであれば、それがすごいヒットすると思う、おそらく。

やっぱりこう、触れ合ったからこそ大切にされた気持ちって、やっぱりすごい大事だと思う。

それはやっぱり“日本の心”だと思う。

それがすごいいいと思うところです。

あと、日本自体が何かいいか？って言ったら、東京あまり良くないんですけど、田舎は非常にいいと思った！

田舎に行くほどみんないい人だし、あの～なんだろう、あったかいし。

信用があって、鍵締めなくていいくらいなんですけど、まあこれはね大きい街で、大阪から来てくれているんですけど、まああれぐらい大きい街になるとちょっと別なんだけど。

悪い人は出て、いっぱい出てくるんですね。

まあ、それはしょうがないんだけど、でもやっぱり日本のそのさっきこの打ち合わせの時、日本のいいところと悪いところ語ってくれないか？ってことで、日本人はここが足りないって、ここに込めて書いたんだけど、僕こそ語ってる場合じゃないと思うんだ。

大きい街になれば、それが出てくるし、乱れる人はいっぱいいるんですけど、グレーゾーンになれる人間は増えると思うんだけど。

田舎に行くほどまじめだし、あの～ただこれはちょっと話の路線が変わるんですけど、田舎はやるのがなさすぎて困るんです。

田舎でやれることって、どんどん増やしてあげなきゃいけない。

僕はまたそれをきっかけの人間として、あのこうスポーツ選手のセカンドライフのキャリアをこうやろうとしている連中がいっぱいいるんで、それをちょっと手伝おうと思ってるんで。

田舎行っても格闘技のイベントとか、町づくりのために格闘技のイベントとか、なんかこうやれば面白いんじゃないかなと思って、僕は思うんです。

それがサッカーでもいいんですけど、野球のイベントでもいいんですけど。

こうやっぱ田舎のいるからこそ、ちょっとそこでもっとふれあい作るべきだと思うんですよね。

そういうとこだと思うんですけど。

質問者6；ありがとうございます。

司会者；他にご質問ある方？ どうぞ！

質問者7；えーつとですね、先ほどインタビューの中でもお話あったと思うん

ですけども、結構骨折とか僕もテレビで見させてもらってそのシーン、足が折れたところ見てたんですけども、長期欠場がかなり多かったと思うんですけど、長い期間欠場されてたと思うんですけど・・・その途中その次がないとか、こう早くしなきゃいけないとか、そういう焦りとかはそういうのはありましたか？

もちろんありました！

最初の1回目折れた時は、早く次やりたいと思ったからこそもう1回折れたんですよ。

それ全然良くないんで、あのよく言うんですけど、あの急いでどこ行くんですか？ていうのがあるんですけど、車で後ろに書いてあるんだけど、バスのほうに。

狭い日本でね、どこ行くんですか？ていうのと一緒なんですけどね（笑）

（会場内爆笑）

なんでそんなに急いでるのかな。

でも僕は試合とかは、あの～ある時にカネもらえると、あのお金として見てる部分もあったし、あったんだけど、基本的に試合っていうのはやっぱりあれだけケガするし、あの商売としては考えられないんですね。

で、ブランクありすぎるでしょ。

それこそ5年待って日本でまた試合して、また腕折れた・・・。

出来るまでまた半年かかるんだよ、ちゃんと。

でもそしたらまた半年、準備が出来ましたー！って言っても、その日が試合があるってわけじゃないし、自分の番が来るまで待たなきゃいけないとか色々あるんだけど、でもやっぱり試合っていうのは楽しく思ってるからやりたいし。

別に時間かかってもいいし、次の試合まではちゃんとした体を作ってやれば・・・みんなの前でいいパフォーマンスして、喜んでくれるような試合をしたいだけだっという気持ちだけだっというわかってたら、本当良い試合ばかりやってたんで、最後・・・。

なんで～、そういうことだと思うんですけど。

答えになりました？

質問者7；あ、ハイ。

司会者；あと・・・

質問者8；私あの～、ペタスさんのことは全く・・・ごめんなさい。知らなくて・・・今日初めて、ただこの異文化の中で生きてらっしゃるとか、そういう立場に興味があって今日は参加しましたけども。最初からお話の中で、今まで20年間日本で暮らしてらして、あの代表的なエピソードをいただきましたけども、ご本人がそういう現実の中で、ご自分なりにご自分の心にあるものを

いろいろな現実を組み立てて、受け入れて来たと思うんですけど、私も現実を見て生きていると思うんですけども。その中でもやっぱり異文化ですから、異文化を通して生きる中でこれだけは絶対的に自分の中にはないものだと感じる時ってありますか・・・日本に住んでらして？

逆にこれだけは自分の本質にないものだって、感じられることってありますか？

お～、難しい質問ですね・・・。

質問者8；あら～ごめんなさい・・・。

いやあのそうですね、それはちょっとねえどう答えたらいいかわからない。

今はたぶん、今の自分から言うとこれ、たぶん答えにならないと思うんですよ。

何故かと言うとまだね、若干自分の中でやろうとしていることで、精一杯で頭で忙しいし、追っかけてるのもいっぱいあるんで、なんでその足りないとか追えられないものとか、追えてないものとか受け入れられないものとかよりも、目の前の仕事である意味頭が精一杯かもしれないです。

すいません、全然答えになってないかもしれないけど・・・(苦笑)

質問者8；いえ、ありがとうございます。

あと10年ぐらいしたら、多分答えが出来るかもしれないです(笑)

(会場内爆笑)

質問者8；いや、私がちょっと聞き方が伝わらなかったかと思うんですけど、異文化の中で私も異文化の中で15年間いまして、非常に本質的に受け入れられないものが必ず壁として立ちはだかるんですよ。越えられないものって。それは自分の中の問題かもしれないんですけど、文化の違いっていうことをそういうものを非常に強く感じたことがあったもんですから、ペタスさんも日本にいらして、そういう日常の中で感じることはないのかなと思って・・・。

ん～・・・僕は今あの一、その大きな組織を辞めてしまっただけで自分でやってるんですけど、ひょっとしたら・・・そうですね、ある組織の壁が越えられなかったんですね。

ぶつけてもぶつけても、あの押し蹴られようとしていたんで、あのそれが非常にこう・・・僕のお母さんも人を育てる人間だったんで、そういうのはお母さんに育ててるんじゃないかな一つと思って。

でそれが全然大山倍達(おおやまますたつ)が亡くなった後の話なんで、あのこれはちょっと違うんじゃないかな～って。

だからさっきの話に戻るんですけど、ブレるならブレるまでブレてみい！っていう話はそこなんですよ。

あの辞めたんですよ、僕は。その組織を。

辞めてこれもう8年くらい経つんですけど、全く戻る気はないんで、辞めて正

解です。

だからたまに辞めるべきだと思うんですよ。

僕はそういう壁がデカ過ぎて、それがどうしても受け入れられなかったんで……。

質問者 8 ; ありがとうございます。

大丈夫ですか？（笑）

司会者 ; 他に質問ある方？

質問者 9 ; 今日はどうもありがとうございました。お話を伺ってて、非常に情熱的でエネルギーに溢れてるっていうのか、あの情熱の源っていうんですかね。

なんなんですかね？

あの～え～と、これオレが言うのなんですけど、ひょっとしたら……男っていうのは夢を追っかけている男っていうのはカッコよく見えるものなんですよ

（笑）

（会場内爆笑）

わかります？（笑）

で、追っかける何かを。それは女性だろうが、本当にマラソン大会でオレが走りたいんだ！この山に上りたいでもなんでもいいんですよ！

あのその、常に夢を追いかけてる人間はアツいんだと思うんですよ。

僕の秘訣はそこなんですよ。

追っかけてる夢はたくさんあるから、忙しい。

本当に。やりたいことたくさんあるんですよ。

ただそれが、これ元だと思うんですよね。

やっぱこう常にこうなんか行きたいところがあるから（笑）

司会者 ; これで次の方で最後の質問になります。ぜひラストに出たいという方はであれば、どうぞ！

質問者 10 ; 今日はどうもありがとうございました。えっとあのお母さんという言葉が出て、ちょっとホッとしたんですけども、17才の時ですかお母さんに3年間日本に修行しに行きたいって言った時に、あの～色々説得をしたかと思うんですけどもそれをOKを出してくれたペタスさんのお母さんから、ペタスさんが学んだことを教えてほしいです。

え～と、自分の考えを信じるということをお母さんは教えてくれたと思うんです。

あのそれこそ、お母さんがあの～叱る親ではなかったし、あの～うまいように転がしてたんですよ、子供を。

まあようは学校の先生でもあったから、転がすのはうまいんですよ（笑）

でも気づいてないんです、子供だと。

なんだけど、うまい具合にお母さんが僕とお兄ちゃんがいるんですけど、育て

方があって、自分の意見をちゃんと言えるような人間にならなきゃいけないし、自分の意見を通すような生き方にしなさいみたいな感じで、口では言ったことはないと思うんですけど、でもそれをお母さんが教えてくれたと思うんだ。

で、これこそさっきの質問になって戻っちゃうと思うんですけど、やっぱこう・・・こーしろ！あーしろ、あーしろ！て、こうしか出来ないんだ、君は！ってのは、どうしてもダメだったんで、ちょっと本当に自分でやってみようかなって30才になるし。その時は。じゃない30（才）前だったけど。

であのその時には、人間としてどっかで親の元から離れて自分の頑張り、自分の努力で生活しなきゃいけないという時が来るんですよ。

でそれを独立して親からちょっと離れてみようかなって、歩いてみようかなって。

まあ本当のお母さんからも離れてるし、そっからも育ててくれて大山倍達（おやまますたつ）の素晴らしい空手のほうからも、もう1回離れてキックのこととか色々やってますけど、やっぱこう自分のやりたいことに対して、自分とその同じ方向を向いている人たちと組んで、一緒にやれたらな〜と。なんかこういういいエネルギーが生まれてくると思うんですよね。

それが僕はお母さんから学んだんじゃないかな〜って思います。

質問者10；ハイ、ありがとうございます。

ちゅーことで・・・（笑）

司会者；ハイ、えっと〜あの〜まだまだお伺いしたいこともあるかと思いますが、でも、残念ながらお時間になってしまいました。えっと以上を持ちまして、ニコラス・ペタス氏の『折れない心の作り方』の質疑応答の部分を終えたいと思います。

最後になりますが、ニコラス・ペタスさんに拍手をお願いします。

ありがとうございます。